

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	日本の文化		
担当者(Instructors)	佐々木 裕美	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

留学生を対象とした授業である。日本の文化に触れることを目的とするが、その根底の学びは「異文化理解」にある。具体的には、名古屋周辺地域の祭を含む地域文化を中心に、フィールドトリップを通して、実際に見たり体験したりの活動を行いながら講義を進める。シラバスに含まれない内容についても、自分たちで積極的に出かけたりして挑戦してみることが期待される。フィールドトリップの日程は、授業の進行に合わせて決定する。外部講師による講義も予定している。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	名古屋の地域文化の歴史的背景を理解するために、講義とフィールドトリップを交互に行う。興味を持った分野について調べたあと、実際に見学したり体験したりし、それをレポートにまとめる。「地域と連携した授業・活動発表会」にエントリーし、発表する。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション 自己紹介	この授業の進め方、日本の文化についての知識と興味の確認	<input type="checkbox"/>
第2回	講義 「三英傑」尾張と三河	郷土の三英傑について学ぶ 同じ県内でも異なる地域文化について学ぶ	<input type="checkbox"/>
第3回	フィールドトリップ 名古屋まつり	祭の文化を見学し、体感する	<input type="checkbox"/>
第4回	フィールドトリップ 名古屋まつり	祭の文化を見学し、体感する	<input type="checkbox"/>
第5回	講義 まとめ、プレゼンテーション	祭の文化についてまとめて発表する	<input type="checkbox"/>
第6回	講義 「尾張名古屋は城でもつ」とは？	名古屋周辺地域が誇るものづくり	<input type="checkbox"/>
第7回	フィールドトリップ 名古屋城・能楽堂・徳川園、豊田産業技術記念館など	今に継がれる江戸時代の文化と、近代のものづくり文化を見学し、体感する	<input type="checkbox"/>
第8回	フィールドトリップ 名古屋城・能楽堂・徳川園、豊田産業技術記念館など	今に継がれる江戸時代の文化と、近代のものづくり文化を見学し、体感する	<input type="checkbox"/>
第9回	フィールドトリップ 名古屋城・能楽堂・徳川園、豊田産業技術記念館など	今に継がれる江戸時代の文化と、近代のものづくり文化を見学し、体感する	<input type="checkbox"/>
第10回	講義 まとめ、プレゼンテーション	今に継がれる江戸時代の文化と、近代のものづくり文化についてまとめて発表する	<input type="checkbox"/>
第11回	講義 「道」とは？ 茶道、華道、合気道、柔道、武士道などに表れる「道」	伝統文化を守ること	<input type="checkbox"/>
第12回	茶道体験	茶の湯の文化を通して日本文化を知る	<input type="checkbox"/>
第13回	講義 着物と茶室、冠婚葬祭	着物と和室の文化「始末」「見えないおしゃれ」「細部のこだわり」 帯刀を許されない「四畳半」	<input type="checkbox"/>
第14回	講義 ポップカルチャー、名古屋めし	アニメ、マンガ、コスプレサミット、ジブリパーク	<input type="checkbox"/>

第15回	講義 まとめ	もっと知りたい「日本の文化」	□
------	-----------	----------------	---

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

予習：「日本の文化」について関心を持って過ごす中で、不思議に思ったり、おや？と感じたりしたことをノートに書いておく（30分）。フィールドトリップで見学する場所や事柄について、事前に調べる（1.5時間）。復習：見学した場所や経験した事柄について、それぞれの持つ意味を調べてまとめる（2時間）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

フィールドトリップのたびに、自分で見聞きしたことや体験したことをまとめる。まとめたものを発表する際は、その場でフィードバックを行う。また、授業中は、自由に発言することができるので、疑問に思ったことがあれば、いつでも質問すること。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019全学共通DP1	学びの基礎となる日本（特に名古屋）の社会、文化、自然等に関連する幅広い知識を習得しながら専門知識を育み、それを活用することができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			100%	

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

授業への積極的な参加を高く評価する（60%）。特に自分が興味を持った日本の文化について、調べたり体験したりして、成果を発表することが求められる（40%）。

■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	未定	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	蜂谷翔音(マジカルトリップ) (著), 松本まさ(マジカルトリップ) (著)『S01 今こそ学びたい日本のこと: 知っているようで知らない 日本人の心、食文化、職文化、信仰、地域の魅力など(地球の歩き方)』(学研プラス)	978-4058018057
2	名古屋市立大学日本文化研究会(編集)『アジアの中の日本文化(名古屋市立大学人間文化研究叢書)』(風間書房)	978-4759922998
3	日本経済新聞社『名古屋のトリセツ』	978-4532264277
4	長坂英生『写真でみる 戦後名古屋サブカルチャー史(爽BOOKS)』(風媒社)	978-4833143141
5	多木曾 幹也『どえりゃあ! 名古屋文化概論 ペーパーバック』(NextPublishing Authors Press)	978-4802097895